

# 人権教育だより『ひだまり』第1号

令和4年5月24日発行

人権感覚の涵養 ～他者の人格を尊重し、自己肯定感の向上を図ろう～

江津工業高等学校人権教育担当

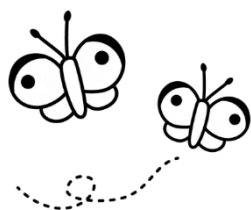
本校は重点目標の1つめに、「人権感覚の涵養」をかかげています。「人権」ということばから、みなさんはどんなことをイメージしますか。人権感覚とは、「偏見等にとらわれず、様々なものの見方ができる力・感性のこと」とされています。

連休のあと、中間テスト、そして総体を目前にして、あわただしく毎日が過ぎていく今、「がんばるぞ!」「がんばらなきゃ!」という気持ちの一方で、ときには「ちょっと疲れたなあ」という自分を受け入れることも大切です。まわりの人を大切にすることはもちろんですが、自分のことも大切にし、心のなかに「ひだまり」のようなほっこりしたあたたかさをもって学校生活を過ごしてほしいという願いを込めて、人権教育だよりの名前をつけました。

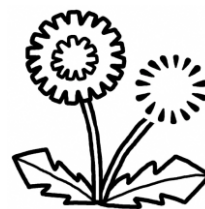
今年度は、以下のように人権教育のホームルーム活動を計画しています。これらの活動を中心にして学校生活全体をとおして「人権感覚」をみがき、「自分の大切さと共に他の人の大切さを認められる」ようになりましょう。

	1年	2年	3年
1学期	仲間づくり	差別の歴史から学ぶ①	就職差別の実態から学ぶ
2学期	自他の尊重①	差別の歴史から学ぶ②	結婚差別の実態から学ぶ
3学期	自他の尊重②	身近な差別から考える	

## 「ぜんぶ」 さくらももこ



大切なことは ぜんぶここにある。  
泣くこと 笑うこと 怒ること 喜ぶこと  
あたりまえの気持ちは あたりまえのものとして  
そのまま 今ここにある。  
もうどこへも行かなくても なんにもしなくても  
どこへ行っても 何をして も ぜんぶそのままだ。



『まるむし帳』(集英社)

テレビアニメでも親しまれている、漫画『ちびまる子ちゃん』の作者・さくらももこさんの言葉です。今、目の前にある、特別ではないあたりまえのようにあるもの・・・友だち、家族、好きな人、毎日過ごしている場所、なにげなく過ぎていく時間、をじっくり見つめてみるのもいいかもしれません。